

# ブータン

国立ブータン研究所  
研究員  
ドルジ・ベンジョール



## 1. ブータン国王と国民が「地球大賞」を受賞

ブータンのジグメ・シンゲ・ワンチュク国王と国民に対して、国連環境計画（UNEP）から初の「地球大賞」が授与されることになり、4月19日にニューヨークで贈呈式が行われた。審査団によれば、同賞は、環境を開発計画の中心にすえて、環境の保護とその持続可能な利用を重視してきたブータンの取組を評価するものである。さらに審査団は、国土の72%以上が森林に覆われ、そのうち26%が保護地区に指定されているブータンの「環境におけるすぐれた実績」を称賛した。

地球大賞は、地球環境及び天然資源の保護と、それらの持続可能な管理のために重要な活躍をし、その功績が認められた個人・団体を表彰するために、2004年に国連環境計画によって創設された賞である。受賞者の功績を報じると同時に、彼らが世界中の模範となることをねらいとしている。その主な目的は、世界的にあるいは各地域において、環境の分野で極めて大きな偉業を達成した個人・団体をたたえることであり、また受賞者の一層の努力を促し、域内及び地球規模での環境



ブータンのダワ・ベンジョー国連大使と他の地球大賞受賞者  
Copyright ©Kuensel

に対する意識の向上へ向けたさらなる貢献を奨励することにある。

出所：「Kuensel」（2005年4月23日、第20巻、25号）

## 2. ブータンは多種の鳥類が棲む「鳥類の孤島」

「ブータンの自然のままですぐつかずの環境は、650種類以上の鳥類の生息地として、バードウォッチャーにとってアジアの特別な場所になっている」と、ブータンでバードウォッチングを堪能する2週間を過ごしたオランダのピーター・デクニフ教授は語った。ブータンの珍しい鳥を見ようと、ブナカ、トンサ、シエムガン、そしてブムタンを旅したデクニフ教授は、41年以上のバードウォッチング歴の持ち主であり、ブータンでのバードウォッチングを、めったにできない、すばらしい体験であると評した。またブータンを、多種の鳥が棲む森林地帯に覆われた「鳥類の孤島」とも表現した。わずか2週間の間に、226種類もの鳥を見つけることができるのは、すばらしいことだとして、「一流の鳥類観察者なら、3週間もあれば約320種の鳥を見つけることもできるだろう」と語った。デクニフ教授によれば、「道端でのバードウォッチング」ではあったものの、美しいゴジュウカラやキムネムシクイ、シロハラサギ、ニジキジ、ナナミゾサイチョウなど、絶滅の危機に瀕している珍しい鳥達を見ることができて、幸運だったという。世界中で生存が記録されている9,000種に及ぶ鳥類のうち、ブータンには650種の鳥が生息しており、これはブータンのように小さな国にしてはかなりの数だと、デク



ニフ教授は語っている。

出所：「Kuensel」（2005年5月12日、第20巻、30号）

### 3. ブータンのプラスチック使用禁止令強化される

国中で見受けられるプラスチック製品の大量使用や廃棄が環境に及ぼす影響に対して懸念が高まり、ブータン政府は、ビニール袋等のプラスチック製品を禁止した「1999年禁止令」の強化を呼びかけた。貿易当局は、効果の上がない同禁止令の改正も可能としている。プラスチックの代替品の不足、関係者による協力の欠如、個人的な習慣、そして国内へ容易に入ってくる禁止物等が、禁止令が機能しなかった理由として挙げられている。貿易産業省によれば、紙袋がビニール袋の代替品として提案されてはいるものの、耐久性やコストの面で、消費者にとって魅力に欠けるといふ。貿易当局は、ブータンの製紙工場が手ごろな価格で使い勝手の良い紙袋を製造するよう奨励されるだろうと、クエンセル紙に語った。

この法律の抜け穴を突き止めた後に、貿易産業省と国家環境委員会は、第2回の公示と禁止法の強化を、世界環境デーでもある6月5日に予定。この禁止法に従わない貿易業者には、初犯でも「厳しい罰則」が課せられ、再犯の場合は免許取り消しとなる。違反者に情状酌量はなく、免許は即座に無効となる。

出所：「Kuensel」（2005年5月18日、第20巻、32号）

### 4. ブータンの環境に対する圧力の増大

国会に提出された国家環境委員会の環境報告書

によれば、人口と開発活動の増加により、ブータンのきれいで手つかずの環境に対する圧力が増大しているという。このような中、2002年に採択された環境影響評価法は制度化が順調に進んでおり、国家環境委員会は関係者と協力しながら、ブータンの天然資源基盤を維持するために、詳しい情報に基づいた政策決定をめざしている。この報告書によれば、環境許可が下りたケースが約142、現在審議中のプロジェクトが180、昨年承認待ちのケースが32あるという。また国家環境委員会によると、林業、工業、道路、水力発電、鉱業、送電線に関する6つの環境アセスメントのガイドラインが更新され、都市と観光部門についてのガイドラインも新規追加された。さらに国家環境委員会は、地方環境委員会の設置を通じて、その機能の分散化を図っており、これにより環境許可制度の効率化と、各地方での開発活動の監視が可能になるはずである。

ブータンは、国土の72%が森林に覆われているとはいえ、そのうち60%を永久に残すという政府の方針を維持するのは大きな課題だといえる。

出所：「Kuensel」（2005年6月22日、第20巻、42号）

### 5. E-waste（電気電子機器廃棄物）：環境への脅威

世界人口の60%を占めるアジア・太平洋地域の、都市部におけるE-wasteの排出量は、人口増加や大量消費、ライフスタイルの変化に伴って、年々増加の一途をたどっている。不要な電子製品の廃棄、いわゆるE-wasteが、アジア・太平洋地域の環境問題として浮上しつつあることが、ティンブーで開催されたアジア・太平洋地域のためのサブリージョナル環境政策対話の会合で明らかになった。サブリージョナル環境政策対話は、2003年に国家環境委員会と国連環境計画の提携で組織され、今回は3回目の会合であった。

「都市部への過度な人口集中と、そこから発生するE-wasteは、深刻な問題になりつつある」と、国連環境計画のクラウス・テプファー事務局長は語り、E-wasteの問題を解決するには域内協力が必要であると付け加えた。環境省の次官は、E-wasteはブータンのように小さな国では将来的には「手が付けられない問題」になり得ると発言し

た。E-wasteの問題に対する意識、資源の動員、地域的なイニシアチブの一部としてのE-wasteに関する域内ネットワーク構築等が、問題解決のために提案された。

出所：「Kuensel」（2005年10月1日、第20巻、71号）

## 6. ブータンの森林被覆は72.5%ではなく、64.35%。

ティンブーで開催された森林に関する年次会議によると、ブータンの森林地帯は国土の72.5%ではなく、64.35%に過ぎないという。72.5%とは、1983年当時の数字である。毎年約10万本の木が伐採され、およそ1,000エーカーの森林地帯が開発活動や採掘、森林火災のために失われた結果、実際に木に覆われた森林地帯は減少し

ている。森林局の説明によると、衛星写真によって測られた72.5%の森林地帯という数字の中には、河川流域や低木林、無人地域なども含まれており、森林被覆の実態を示すものではなかった。また、首相と農業大臣を兼任しているリヨンポー・サンゲイ・ニドゥップ氏によると、ブータンの森林のうち約2,737エーカーが開発活動によって、約975エーカーが採掘や採砂、採石によって既に失われており、毎年約19エーカーの森林が火災によって失われているとのことである。毎年およそ210万立方フィートの木材、つまり約10万本の木が利用され、森林の1.1%が荒廃林地となっている。ニドゥップ氏は、このままでは国土の60%を森林地帯として残すという国会で決定された森林政策を守り続けるのは困難であろうと語った。

出所：「Kuensel」（2005年10月8日、第20巻、73号）